

9

古典

■学習日

/

要点チェック

(1) 次のそれぞれの——線部を現代仮名づかいに直して答えなさい。

□① ゐなかのねずみ。 →

□② 山のみみぢ。 →

□③ われは思ふ。 →

□④ おほくのもの。 →

□⑤ 昔、をとこありけり。 →

□⑥ かうべをたれる。 →

□⑦ やうやう白くなりゆく。 →

(2) 次のそれぞれの文・和歌の——線部の言い切り方はどのことばに対応したもののか。係りのことばを書き抜いて答えなさい。

□⑧ いつまでか野べに心のあくがれむ

花し散らずば千代も経ぬべし

□⑨ きのおこそ早苗とりしかいつの間に

稲葉そよぎて秋風の吹く

□⑩ 名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

花ぞ昔の香に匂ひける

□⑪ 人はいさ心も知らずふるさとを

花ぞ昔の香に匂ひける

□⑫ 小兵衛が語らひ出したるにやありけむ。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いづれの\* 書を読むとても、\* 初心のほどは、\* 片はしより\* 文義を\* 解せむとはすべからず。まづ\* たいていに\* さらさらと見て、他の書に移り、\* これやかれやと読みては、またさきに読みたる\* 書へ立ちかへりつつ、幾遍も読みうちには、初めに\* 聞こえざりしことも、②\* そろそろと聞こゆるやうになりゆくものなり。

〈本居宣長「うひ山がみ」より〉

(注) 書Ⅱ書物。 初心のほどⅡ初めて学問をすること。

片はしよりⅡ初めから順々に。 文義Ⅱ文章の意味。

解せむⅡ理解しようとする。 たいていにⅡおおよそに。

さらさらとⅡあっさり。 これやかれやとⅡあれこれと。

聞こえざりしことⅡ解らなかつたこと。

そろそろとⅡだんだんと。

□(1) ——線①「書へ立ちかへりつつ」を現代仮名づかいに直して答えなさい。

□(2) ——線②「そろそろと聞こゆるやうになりゆく」とありますが、何が

「聞こゆる」ようになるといいますか。次から最も適切なものを選び、

記号で答えなさい。

ア 一つ一つのことばが指す内容。

イ 初めのうちは理解できなかったこと。

ウ その本の主題となるような事柄。

エ 書物をどう読んだらよいかという方法。

□(3) この文章で筆者が述べている内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 学問をするときは、まず一冊の書物を選び、それを繰り返し読むべきだ。
- イ 書物を読むときは、難解な部分を理解するまで、じっくりと読むべきだ。
- ウ どんな本でも、熱心に読んでいけば、自分にとって役に立つものだ。
- エ 初学者は、初めは書物の細部にはこだわらずに読み進むのがよい。

## 2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

京に住む、位の低い武士の妻が産し、その産後の肥立ちのため、肉を欲しがった。そこで武士は雄の鴨を射て持ち帰った。すると、雌の鴨が、雄を慕って武士の家までやってきた。

「\*早う、昼、池に並びて \*食らひつる雌<sup>①</sup>の、<sup>②</sup>雄の \*射殺されぬるを見て、夫を恋ひて、\*取りて来たる尻<sup>しり</sup>につきて、ここに \*来たりにけるなりけり。」と<sup>③</sup>思ふに、男 \*たちまちに \*道心起こりて、<sup>④</sup>あはれに悲しきこと限りなし。

(注) 早う〜けり⇨おやまあ(驚いたこと)〜であったよ。

食らひつる⇨えさをあさっていた。

射殺されぬる⇨射殺された。

取りて来たる尻につきて⇨射殺してつかまえて帰ってきた自分のあとについて。

来たりにけるなりけり⇨来たのであったよ。

〔今昔物語〕より

たちまちに⇨突然に。

道心⇨仏の道を深く信じようとする心。または、慈悲の心。

□(1) —線①「の」の働きとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 部分の主語を表す。      イ 連体修飾語を作る。
- ウ 体言の資格を与える。      エ 並立・列挙を示す。

□(2) —線②「雄」と同じ意味を表していることばを本文中から一語で書き抜いて答えなさい。

- ア 雌鳥      イ 雄鳥
- ウ 武士      エ 武士の妻

□(3) —線③「思ふ」とありますが、そう思ったのは誰ですか。次から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

□(4) —線④「あはれに悲しきこと限りなし」の口語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 限りなく愚かな雌の鴨であった。
- イ ただただ驚かされるばかりであった。
- ウ 趣のある話で、悲しみも忘れさせてくれた。
- エ しみじみと感動して、この上もなく悲しいことであった。

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

\* 豊前の国の住人、太郎入道といふものありけり。男なりける時、つねに

猿を射けり。ある日山を過ぐるに、大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たり

けるほどに、 \* かせぎに射てけり。すでに木より落ちんとしけるが、

\* なにとやらん物を木のまたに  置くやうにするを見れば、子猿なりけり。お

のが傷を負ひて土に落ちんとすれば、子猿を  負ひたるを助けんとて、木のま

たに  据ゑんとしけるなり。子猿は又、母につきて  離れじとしけり。  かく

たびたびすれども、なほ子猿つきければ、もろともに地に落ちにけり。  それ

よりながく、猿を射ることをばとどめてけり。

〔橋成季「古今著聞集」より〕

(注) 豊前||現在の大分県の一部と福岡県の一部。

男なりける時||まだ出家していない時。

かせぎ||木のまた。 なにとやらん||何かわからないが。

負ひたる||背負っている。

(1)  ※ に入ることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えな

さ。

ア あやまたず      イ うかつにも

ウ さからへず      エ さりとて

(2) 線①「置くやうに」を現代仮名づかいに直して答えなさい。

(3) 線②「据ゑんとしけるなり」とありますが、何が「据ゑん」としたの

ですか。それを示すことばを本文中から漢字二字で書き抜いて答えなさい。

(4) 線③「離れじとしけり」とはどういうことですか。次から最も適切

なものを選び、記号で答えなさい。

ア 離れようとした      イ 離れてじっとしていた

ウ 離れまいとした      エ 離れてすぐ戻った

(5) 線④「かくたびたびすれども」とありますが、何を「たびたび」す

るのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 太郎入道が猿たちを地に落とすまいとすること。

イ 子猿が母猿にとりすがろうとすること。

ウ 母猿が子猿を木のまたに据えようとする事。

エ 母猿が木のまたにすがって地に落ちまいとすること。

(6) 線⑤「それよりながく、猿を射ることをばとどめてけり」とありますが、なぜ「とどめ」たのですか。次から最も適切な理由を選び、記号で答えなさい。

ア 一度に二匹もの猿を手に入れて、当分の間狩りをする必要がなくなっ

てしまったから。

イ 母猿と子猿の情愛に強く心を打たれて、今まで自分がしてきたことを

後悔したから。

ウ 子猿を助けることもできず矢を受けて死んでいった母猿の恨みがこわ

かったから。

エ 出家を志す身でありながら、猿を殺してしまったことはまずかったと

反省したから。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

孔子、\*せい齊に適ゆかんとし、泰山たいざんの側かたはらを過ぐ。婦人の野に\*てく哭する者ありて哀かなしむ。

\*かうし夫子、\*ま式して①—これを聴きていはく、「この哀、\*いっ一に重ねて\*憂憂ある者に似たり。」と。\*しこ子貢をして往ゆきてこれを②—問はしむ。

すなはちいはく、「昔、舅しよと、虎とらに死し、わが夫またこれに死す。今、わが子またこれに死す。」と。

子貢いはく、「\*なんぞ去らざるや。」と。

婦人いはく、「\*苛政なければなり。」と。子貢、もつて孔子に告ぐ。

\*子子いはく、「\*せうし小子これを識しるせ。③—苛政は\*暴虎よりも猛まし。」と。

〔孔子家語〕より

(注) 齊せい 中国にあった国の名。

哭する 大声で泣き叫ぶ。死者をいたむ礼の一つ。

夫子 先生にたいする敬称。 式 車上からする敬礼。

一に 全く。まるで。 憂 肉親の死。

子貢 孔子の弟子の一人。

なんぞ 去らざるや どのようにして立ち去らないのですか。

苛政 取り締まりが厳しく、税や罰の重い政治。

子 孔子。 小子 おまえたち。 暴虎 荒々しい虎。

□(1) — 線①「これ」の指す内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野外で泣き叫んでいる婦人の声。

イ 虎を退治して欲しいという婦人の訴え。

ウ 人食い虎が近くにいるといううわさ。

エ 政治がうまく行われていないという、婦人の嘆き。

□(2) — 線②「問はしむ」とありますが、誰だれが誰に「尋ねさせた」のですか。次から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 孔子が子貢に

イ 子貢が婦人に

ウ 子貢が孔子に

エ 孔子が婦人に

□(3) — 線③「苛政は暴虎よりも猛し」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 苛政は暴虎よりも強くなければならぬ。

イ 苛政は暴虎よりもまだましである。

ウ 苛政よりも暴虎の方がまだましである。

エ 苛政よりも暴虎の方が恐ろしいものである。

(助詞)

□(1) 次の例文の—線部「の」と同じ意味・用法のものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

例 古典は読者の忘却の層をくぐり抜けたときに生まれる。

ア これが私の推薦する本だ。 イ 彼は走るのが速い。

ウ これは私のささやかな贈り物です。 エ どこへ行くの。

□(2) 次の例文の—線部「から」と同じ意味・用法のものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

例 彼は人柄だれがいいから、誰だれにでも好かれる。

ア 父から手紙が来た。 イ 紙は木材から作る。

ウ 雨が降るから遠足は中止だ。 エ 風邪から肺炎になる。

エ 風邪から肺炎になる。

エ 風邪から肺炎になる。